

校長室の窓から

令和7年7月2日
明石台小学校長
平田 喜秋 第2号

世界で一番高い絵？

7月2日朝会より

みなさん、おはようございます。今日は「世界で一番高い絵」の話をします。世界で一番高い絵（価値のある絵）はたぶん、この絵だと思います。レオナルド・ダ・ビンチという人が描いた有名な絵。なんという絵か知ってるかな？そうそう、『モナリザ』という絵ですね。でも、この絵はフランスのルーブル美術館という大きい美術館にあって買うことはできないから、値段を付けることもありません。では、実際に売り買いされたもので、一番高かった絵は何か？やっぱりこの人、レオナルド・ダ・ビンチさんが描いた『サルバトールムンディ』という絵です。いくらだったと思いますか？



ん……。まだまだ高いですよ。はい、510億円です。ちょっと、どれくらい高いのかちょっと分かりにくいですね。じゃあ、510億円で何がどれくらい買えるか考えてみましょう。高級車はなんと1万台買えます。そして、高級マンションだったら、なんと530棟も買えます。もっと身近なもので、うまい棒34億本買えます！毎日一本ずつ食べても930万年かかります。すごいね。

ちなみに2番目に高かった絵は、デ・クーニングという人が描いた『インターチェンジ』というこの絵。340億円です。ちょっと、何を描いているんだか分からないような感じですね。これ、誰でも描けるんじゃない？って思ってしまう。今までにこんな絵は世界中になかったから価値が上がったのかもしれない。

3番目は、セザンヌという人が描いた『カード遊びをする人』238億円。これもまた、パッと見たら私たちでも描けそうな絵です。セザンヌは世界中でも有名な画家です。一度有名になれば、どんな絵でも高い値段が付くんですね。

では、日本人で一番高く売れた画家はというと、奈良美智という人が描いた『ナイフ・ビハインド・バック』で27億円です。アニメのキャラクターのような絵です。何だか、これもみんな描けそうじゃない？奈良さんも世界中で知られている有名な画家です。皆さんも何気なく描いた漫画やアニメのような絵でも取っておいた方がいいかもしれないね。



こんなものもあります。正体不明の画家、バンクシー。この人は、正体をばれないように夜中にこっそり現れて、壁とかに絵を描いて夜が明ける前にいなくなるで、誰もこの人を見た人はいません。そのバンクシーの『風船と少女』という絵が競売にかけられ、1億5千万円で競り落とされました。ところが……。その値段が決まった瞬間、絵の中に自動で動くシュレッダーという機械が作動し、絵の半分がバラバラになったのでした。これがその瞬間です。



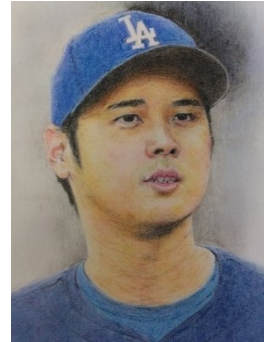
1億5千万円の絵がバラバラになってしまった…残念、と誰もが思ったはずなのですが、半分バラバ

ラになったこの作品が3年後の2021年に再び出品されました。絵の題名は『愛はごみ箱の中に』と変更されていましたが、落札価格はなんと、29億円（一回目の約20倍）に跳ね上がりました。バラバラになった方が、価値が上がり、高くなることもあるんですね。

ちなみに大谷翔平選手の推定年収（1年間でもらうお給料）は約152億円とされています。これまたすごい金額ですね。

（校長先生がかいた絵はいくらになるかなあ？）

校長先生が皆さんに伝えたかったことは、いつ、どこで、どんなものが評価されて、高価なものになるか分からない、ということ。バラバラになってから、さらに価値が上がることもあること。だから、自分の判断だけで物事を決めつけてはいけないということです。まとめると、世の中にはいろんな見方・考え方があるから、いろんな人の意見や話を聞いてからよく考えて判断することが大切だということです。みなさんにも、どんな才能が眠っているか分かりませんから、今の学校の勉強をしっかりとっておくことが大切です。これからはがんばっていきましょう。



これでお話を終わります。